

◆保険に入っています

- ケガによる死亡後遺障害560万
 - ケガによる入院8,400円/日
 - ケガによる通院5,600円/日
 - 熱中症危険補償特約つき
-
- 行事中、および集合解散場所と住居との往復途中中の事故によるケガを補償

緑のガイドツアー

【赤塚コース】

令和4年11月1日(火)
※雨天翌日

1

2

泉福寺

泉福寺大堂にある暦応3年(1340)の銅鐘銘にその名を残す真言宗寺院。境内には室町時代の板碑が多数保存されている。

本堂の十一面観音立像は、天和元年(1681)7月15日に、地元の春日伊兵衛によって奉納されたもので、板橋区指定有形文化財(歴史資料)に指定されている。(くらしと観光課 作成資料より)

3

キンモクセイ



泉福寺のキンモクセイ

モクセイ科

金木犀
常緑広葉樹。花期:9~11月。
日本では雄株のみであり、実はない。
直径4~5mmの橙黄色の花が咲き、強い芳香がある。一時期トイレの芳香剤に使用されていた。
ギンモクセイの変種といわれ、ギンモクセイは黒褐色に熟する実になる。

4

松月院 大堂(1)

大堂は、区内で最も古いお寺で、平安朝初期の創建といわれています。

隣接する八幡神社の創立は不明ですが、大堂が上杉謙信に焼かれたとき、火の中から本尊阿弥陀如来が出現し、八幡社傍らの古木に止まった、という記述が見られます。

ちなみに大堂のあるこの丘は、古墳といわれています。
(くらしと観光課 作成資料より)

5

松月院 大堂(2)

本堂に安置された阿弥陀如来坐像は、高さ約90cmの木像で平安時代後期の作と思われる立派な尊像である。

また、堂前の梵鐘は暦應3(1340)年の鑄造で、学僧として名高い鎌倉は建長寺42世中岩(円月)も撰文の鐘銘により名鐘として誉れ高く、古来文人墨客の杖をひくところとなった。

鎌倉時代以前は七堂伽藍に12の脇坊を備えた大寺であった大堂も、永禄4(1561)年上杉謙信による小田原攻めのとき兵火にかかったと伝えられ、いまはわずかに本尊と梵鐘に往時の面影をしのぶにすぎない。
(板橋区教育委員会)

6

鐘 楼

大堂銅鐘

板橋区登録有形文化財(歴史資料工芸品)

昭和59年度登録

昭和24年5月 国重要美術品

※現物は郷土資料館で展示

ここにあるのは複製品

7

保存樹木制度

市街地に残された大径木を「保存樹木」として指定し、維持・保全のための管理経費助成、剪定経費助成等を行っています。

指定条件:高さ1.5mでの幹周1.2m以上の樹木で良好に生育している樹木等

指定本数:1,781本(令和元年度末)

8

イチヨウ

イチヨウ科

銀杏、公孫樹、鴨脚樹

中国原産。仏教伝来で移入

街路樹として全国に57万本(樹種では1位)

火に強い性質で、防火のため社寺に植えられる。

材は高級な板の材料

ギンナンは食べすぎると中毒を起こす。幼児では死亡例もあるので注意

東京都のマークは、「T」で、イチヨウの葉ではない。

9

カヤ

イチイ科

榿

枝を燻して蚊を防除した(蚊遣り)が語源(説)

耐陰性があるが、生長が遅く寿命が長い。

葉先が固く鋭い。よく似たイヌガヤ(イヌガヤ科)は葉が柔らかく、痛くない。

カヤ材で作る将棋盤、碁盤は最高級品

実は食べられるが、あく抜きが必要

10

アカガシ

ブナ科

赤檜

材は赤みを帯びる。非常に硬く狂いが少ないが、加工も困難。ノミの柄、カンナ等の工具、木刀、船の舵や櫂等に利用。どんぐりは2年目に熟して落ち、殻斗には10本程の横線と褐色の毛がある。山野に自生するが神社等にも植えられる。

11

怪談 乳房榿

「牡丹灯籠」や「累ヶ淵(かさねがふち)」と並ぶ、三遊亭円朝の怪談噺の傑作。長い噺の中に...

「松月院の境内には、乳房の形をしたコブのある榿があった。そのコブからしたたる甘い雫は、乳房の病を治し、乳のでない女も乳が出るようになるという。正介は榿の雫を乳代わりにして真与太郎を育てた。松月院の榿は霊験あらたかな乳房榿として、江戸中の評判となる。」とあります。

(くらしと観光課 作成資料より抜粋・要約)

12

クズ

マメ科

葛

秋の七草のひとつだが、開花期は夏。

地下の塊根に多量のデンプンを蓄え、葛粉や葛根湯の原料にもなる。

1876年のフィラデルフィア万博の際、アメリカに運ばれ、土壌流出防止などに使われたが、旺盛な繁殖力のため、今では「世界の侵略的外来種ワースト100」のひとつ。

13

ヒイラギ

モクセイ科



柎 “ひいらぐ”=ヒリヒリ痛む

11月頃、芳香のある白い花を咲かせる。雄花と両性花がある。果実は翌年の6月～7月に黒紫色に熟す。

老木の葉は、棘が無くなり丸くなる。

クリスマスのヒイラギ(ホーリー)

は全くの別種

●セイヨウヒイラギ・・・モチノキ科

赤い実

●シナヒイラギ・・・モチノキ科

赤い実、四角い葉

14

高島秋町(高島秋帆)

1831年(天保2年) 10月11日 渡辺華山 上毛への旅に板橋宿を出発

1837年(天保8年) 7月 前年よりの大飢饉に板橋ヶ原で餓死するもの数

百人、この遺体を乗蓮寺に埋葬、供養塔を建立

1839年(天保10年) 乗蓮寺お成門を改造す

1841年(天保12年) 5月9日 高島秋町、徳丸ヶ原で洋式砲術調練を行う

1845年(弘化2年) 円福寺炎上

1851年(嘉永4年) 6月～8月 幕府が徳丸ヶ原で火砲の稽古を行う

1861年(文久元年) 11月14日 孝明天皇の妹和宮(のち静寛院宮) 徳川家茂に

降嫁の時、縁起が悪いという理由で縁切榎を迂回したといわれる

(データ版“区”歴史編(平成24年版)編集 広聴広報課 より抜粋・要約)

15

イヌマキ

マキ科

犬槨

実は2段に分かれ、赤い部分(花托)は甘く、食べられるが、青い部分(種子)は有毒。

●ラカンマキ イヌマキの変種で葉が小型

●コウヤマキ コウヤマキ科で、全くの別種
イヌマキに対してホンマキとも

16

コウヤマキ

コウヤマキ科

高野槨

別名:ホンマキ

1科1属1種の日本固有種

イヌマキ(マキ科)に対して、本槨と呼ぶ。

マツのような細い葉が2枚合着している。

材は耐水性があるため、古墳時代の棺や橋杭等に利用された。

17

シュウメイギク

キンポウゲ科



秋明菊

中国原産

キク科ではない。分類上は

ニリンソウやアネモネの仲間。

花弁は無く、花びらに見えるのは萼。

様々な園芸品種があり、色も様々。

18

ヤブツバキ

藪椿

ツバキの保存樹木は、松月院の1本だけ。

2014年の大雪で、枝が折れてしまったが、回復中

＜問題＞

椿＝ツバキ 榎＝エノキ 柊＝ヒイラギ 楸＝？

＜答え＞ ヒサギ

※ヒサギは、アカメガシワ(トウダイグサ科)または、キササゲ(ノウゼンカズラ科)の別名と言われている。

19

ツバキ と サザンカ

【ツバキ】

【サザンカ】

●咲き方

平開しない

平開する

●散り方

花ごと落下

花びらが散る

●花糸

下半分くつつく

くつつかない

●子房

毛が無い

毛がある

●葉柄

毛が無い

毛がある

20

ザクロ

ミソハギ科



石榴、柘榴、若榴

原産地：不明(西アジア説、ヨーロッパ説、アフリカ説)

手榴弾の「榴」はザクロが語源。

「ザクロの実が人肉の味に似ている」というのは、

釈迦が鬼子母神にザクロを与えて、子供を食べるのをやめさせた、という日本で作られた俗説から。

21

ボダイジュ

シナノキ科

菩提樹 中国原産

釈迦が悟りを開いたのは、熱帯樹のインドボダイジュ(クワ科)の樹の下。日本では、葉の形が近い本種が代わりに植えられる。

シューベルトの歌曲「菩提樹」は近縁のセイヨウシナノキ(リンデンバウム)のこと。



22

仏教の三大聖木

日本のお寺では代用の植物が植えられています

聖木の名前	インド(熱帯植物)	日本(代用植物)
無憂樹 (生誕の樹)	アショーク (マメ科)	代用なし?
菩提樹 (悟りの樹)	インドボダイジュ (クワ科)	ボダイジュ (シナノキ科)
沙羅双樹 (入滅の樹)	シャーラ (フタバガキ科)	ナツツバキ (ツバキ科)

23

ナンテン

メギ科

南天

秋に赤い実を付ける。

実を煎じて咳止めにする。

葉を赤飯などに添える。

矮性のオタフクナンテンは、緑化樹として多用される。



24

クリ

ブナ科

栗 原種を山栗、柴栗と呼ぶ。
山栗は、古来から重要な食料だった。
雌雄同株。雌花は雄花の花序の基部に付く。
クリタマバチによる、虫こぶができることがある。
栗の実は「堅果」に分類され、果皮が薄く堅くなったもの。種子そのものではない。イガは苞葉が変化した物。

25

エノコログサ

イネ科



狗尾草
別名：ネコジャラシ
名は、「犬っころ」から。子犬の尻尾に見立てた
●キンエノコロ・・・穂が、金色
●ムラサキエノコログサ
・・・穂が、紫褐色
●アキノエノコログサ
・・・穂が長く、垂れ下がる

26

モッコク

ツバキ科

木斛
赤い実は秋に熟して裂け、赤い種子が現れる。
江戸五木(アカマツ、イトヒバ、イヌマキ、カヤ、モッコク)の一つ。庭木の王(女王)と呼ばれる。
材は赤く、緻密で固い。建築材、器具材、寄木細工などに使われる。特に沖縄では、首里城に使われるなど、重要な建築材。

27

こぶ櫨

諏訪神社参道入り口にあたる場所。参道は神社拝殿まで200mほど続いていたが、バイパスにより分断されてしまった。2月13日の田遊びのときには、神幸の行列が本来はここまで回った。
酪農が盛んだった頃は、毎日しぼった牛乳が、このこぶ櫨のところに集められて出荷された。

(写真は語る 総集編 より要約)

28

こぶ櫨 昔の写真

(写真は語る より 時代不明)



29

区登録記念物(樹木)

- | | |
|---------------|-----------|
| ● 諏訪神社のこぶケヤキ | 赤塚八丁目5番 |
| ● 諏訪神社の夫婦イチョウ | 大門11番 |
| (赤塚)氷川神社の参道並木 | 赤塚四丁目22番 |
| 小豆沢神社のスダジイ | 小豆沢四丁目16番 |
| (清水)稲荷神社のイチョウ | 宮本町54番 |
| (若木)稲荷神社のムク | 若木一丁目13番 |
| 安養院のカヤ | 東新町二丁目30番 |
| 圓福寺のコウヤマキ | 西台三丁目32番 |
| 西光院のスダジイ | 南町31番 |
| ● 松月院のヒイラギ | 赤塚八丁目4番 |
| (志村)熊野神社の樹林 | 志村二丁目16番 |

30

タカノハススキ

イネ科

鷹羽薄

別名: ヤハズススキ

ススキの変種で、葉に虎斑が入る。

この模様を、鷹の羽根に例えた。

土中の窒素分が多いと、斑が消えることがある。

31

富士塚

ミニチュアの人造富士山

富士講が盛んになった18世紀以降、各地に作られた。登山道や富士山の礼拝所が表現されていて、富士山の溶岩も使われている。

この富士塚については、明治5年に「下赤塚仙元富士山」との表記が残っている。

板橋区の登録記念物

32

アカバナユウゲショウ

アカバナ科



赤花タ化粧

別名: ユウゲショウ

南米原産

明治時代に帰化したツキミソウの仲間。

名前は、ツキミソウより早く夕方から赤い花を咲かせるからというが、実際は昼間から咲く。

33

ルコウソウの仲間

ヒルガオ科



縷紅草

熱帯アメリカ原産

●ルコウソウ

葉が糸状に細かく切れ込む

●マルバルコウ

アサガオに似た葉

●ハゴロモルコウソウ

ルコウソウとマルバルコウの交配種

34

コセンダングサ

キク科



小梅檀草

北アメリカ原産

実には鉤があり、衣服などにつく「ひつつぎ虫」

舌状花(キクのような花びら)が無い。

●センダングサ・・・舌状花がある。

●アメリカセンダングサ・・・花の下に放射状の長い葉(総苞片)がある。

35

ゼニアオイ

アオイ科

銭葉葵

ヨーロッパ原産

ゼニアオイは別種で、上に伸び背が高くなる。

本種は、横に這い、背が高くない。

花も小さく、ゼニアオイほど派手ではない。

36

サワラ

ヒノキ科

榿

材木はヒノキより柔らかく香りが無いが、耐水性があるため、桶や柄杓、飯櫃などに使われる。

ヒノキとの見分け方は、葉の裏の白い筋

→ヒノキはY、サワラはX(ただし交配種もある)

くヒノキの品種(緑化に使われる)＞

イトヒバ(ヒヨクヒバ)、フィリフェラオーレア など

37

常緑ヤマボウシ

ミズキ科

常緑山法師

別名:トキワヤマボウシ

中国南部原産

冬でも都市部では葉が残る

ヤマボウシに比べ、花や実が多く、見栄えが良いので近年、庭木として普及

いろいろな品種がある。



常緑ヤマボウシの実

38

ホソバヒイラギナンテン

メギ科

細葉柊南天

中国原産

ヒイラギナンテンより葉が細くトゲが柔らかい。緑化樹としてよく使われる。実は青く熟す。

更に葉が細いナリヒラヒイラギナンテンもある。

39

赤塚諏訪神社

創建は文明年間といわれ、赤塚城主千葉自胤が信州諏訪大社の分霊を勧請してここに祀り、赤塚城の鬼門除けにしたと伝えられています。

徳丸北野神社とともに、国重要無形文化財に指定されている「田遊び」や区無形民俗文化財の「獅子舞」が伝承されています。

田遊びは、諏訪神社、北野神社ともに板橋十景に選ばれています。

40

エノキ

アサ科

榎 (和製漢字)

一里塚に植えられた。枝が大きく張るため、遠くから目立ち、旅人に木陰も提供した。

果実はオレンジ色から黒く熟し食べられる。

国蝶オオムラサキとゴマダラチョウの幼虫の食草ニレ科からアサ科に分類が変わった。

41

カツラ

カツラ科

桂

香出る(かづる)が語源という説

秋に黄葉し、落ち葉が乾きかけの時に、綿菓子や醤油のような香りがする。

材は将棋盤等にも使用される。

(最高級品はカヤが使用される。)

42

モウソウチク

イネ科

孟宗竹

中国原産

冬に母のために寒中筍を掘り採った三国時代の呉の人物、孟宗にちなむ

マダケは節のリング(盛り上がった部分)が二重だが、モウソウチクは一重

43

ユリノキ

モクレン科

百合の木

別名(花の形から):

チューリップツリー、レンゲボク

別名(葉の形から):

ハンテンボク、ゲンバイノキ、ヤッコダコノキ

北アメリカ原産

花は5月頃だが、木の下からだと見えにくい
秋に翼のある種子が風に乗って散布される

44

ピラカンサ

バラ科

トキワサンザシ、タチバナモドキ等の総称(属名)

昭和初期に渡来した。

赤い実はたくさんつくが、鳥には不人気で、長い間残っている。最初は毒があるが、時間が経つにつれ毒性が消え、その頃まで鳥が食べないから、という説がある。

45

板橋区立美術館

昭和54(1979)年5月20日に東京23区初の区立美術館として開館。開館40年を迎える2019年、時代のニーズや美術館の活動に合う建物にするため大規模改修を行い、装い新たにオープン。

収蔵作品は、江戸狩野派をはじめとする近世絵画、大正から昭和初期の前衛美術、板橋区ゆかりの作家の作品が中心。

イタリア・ボローニャ国際絵本原画展をはじめとした各種展覧会、ワークショップなどを開催。

ロゴマークはデザイナー・造本作家の駒形克己氏によるデザインで、改修後も変わらない美術館正面の個性的な形をモチーフにされた。

(板橋区立美術館ホームページより要約)



板橋区立美術館
ITABASHI ART MUSEUM

46

サンシュユ

ミズキ科

山茱萸

別名:アキサンゴ、ヤマグミ

早春に黄色い花。秋の赤い実は食べられるが、生食に向かない場合もある。

ブルガリアの「ヨーグルトの木」の仲間なので、温めた牛乳に枝を入れ、一晚保温すると、ヨーグルトができる。(食べても安全の保障はしかねます)

47

メタセコイア

ヒノキ科

別名:アケボノスギ

秋、垂れ下がった雄花の冬芽(早春に開花)と、果実が同時に見られる。雌花は葉芽に似る。

日本各地で化石が発見されていたため、絶滅した種と思われていた。

1945年に四川省で生きた樹が発見された。生きた化石として有名になり、公園や学校に植えられた。針葉樹だが、紅葉し落葉する。

48

イヌシデ

カバノキ科

犬四手、犬垂 別名:ソロ

「シデ」の語源は、しめ縄の紙飾り「紙垂、四手」翼の付いた花穂の下がる形を見立てた。

凹凸のある幹の縞模様が特徴

板橋区内では、崖線の斜面地で見られる。

良く似たアカシデもあるが、種子の無い時期は見分けが難しい。

49

ミズキ

ミズキ科

水木 別名:クルマミズキ(車水木)、燈台木

谷や沢の近く等、水分の多い場所に育つ。

芽吹き of 時期、枝を切ると水がしたたり落ちるほど、水を吸い上げる。

枝が棚状に伸びて重なり、白い花がたくさん付き、遠くからでも目立つ。

黒紫色の実は、ツキノワグマの好物

50

ヤブミョウガ

ツルクサ科

藪茗荷

ミョウガはショウガ科なので、全くの別種

上からみると葉の付き方が、ミョウガとは違う。

夏に白い花をつける 雌花と両性花が混在する

青黒い実の中には、立体パズルのように種子が詰まっている

51

ミズヒキ

タデ科

水引

花は上から見ると赤、下から見ると白。紅白の水引に例えた。花びらはなく、萼片。

52

赤塚城趾

下総国の守護千葉氏は、古河公方足利成氏と関東管領上杉家とが争った享徳の大乱(享徳3年(1455)～文明9年(1477))に巻き込まれる。

康正2年(1456)成氏方の軍勢に攻められた千葉実胤・自胤(さねたね・よしたね)兄弟は、上杉家の助けをうけ、市川城を逃れて赤塚城と石浜城(現台東区)へ入城。

寛正4年(1468)に兄の跡を継いだ自胤は、太田道灌に従って各地を転戦、現在の和光市や旧大宮市、足立区内に所領を獲得するなど、武蔵千葉氏の基盤を築いた。その後、武蔵千葉氏は、南北朝以来の領主であった京都鹿王院の支配を排除するなど赤塚の支配の強化に努め、北条氏が武蔵国へ進出してくるとこれに従い、豊臣秀吉に滅ぼされる天正18年(1590)まで勢力をふるった。(環境課作成資料より要約)

53

景観形成重点地区

板橋崖線軸地区

徳丸～赤塚へ連続する緑豊かな崖線とその周辺には、板橋区を代表する良好な緑が広がります。崖線の緑と街並みの緑が調和・連続した景観の形成を目指し、景観条例による地区指定がかかっています。

54

ハマヒサカキ

モッコク科

浜姫櫛

別名：イソシバ

ヒサカキの仲間だが、葉は丸く小さく光沢がある。乾燥や潮風に強く、街路樹の植込みなどに使われる。

ヒサカキ同様、花には異臭がある。

55

イヌツゲ

モチノキ科

犬黄楊

ツゲ(ホンツゲ)に似るが、ツゲはツゲ科で全くの別種。

刈込に強く、葉が密なため、生垣に使われる。

葉の付き方が互生(⇔ツゲは対生)

雌雄異株で、黒い実になる。

マメツゲ(マメイヌツゲ)は、イヌツゲの変種

56

クヌギ

ブナ科

櫟、栲、橡

樹液が浸み出しやすいため、昆虫が多く集まる。

成長が早く萌芽更新するため、古くから利用されてきた。材木のほか、薪、シイタケのほだ木等

ヤマユガ(天蚕)の餌。天蚕の絹糸は緑色の光沢があり、「繊維のダイヤモンド」といわれる。

57

ドングリの成長

●1年で成長

コナラ、シラカシ、アラカシ

●2年かけて成長

クヌギ、ウラジロガシ、ウバメガシ、マテバシイ、スダジイ

58

コムラサキ

シソ科

小紫

自生するムラサキシキブより、葉が小型で、実がぎっしりつくので、庭によく植えられる。

元々は「紫式部」ではなく、「ムラサキシキミ」だったらしい。シキミは「重なる実」の意味。

59

サイカチ

マメ科

梔 別名：カワラフジノキ 日本固有種

10月頃、ねじれた鞘の実がつく。

鞘にはサポニンが含まれ、石鹼の代わりになる

幹や枝に長くするどい棘が多数あるが、この個体にはなぜか見当たらない。

種子は非常に硬く、サイカチマメゾウムシの幼虫が食い破った穴から雨水が入って発芽する。

60

ムクノキ

アサ科

棕の木（ムクドリが果実を食べに集まる）
紫色の果実は人も食べられる。
葉は紙やすりのようにざらつく。（漆器を磨く）
樹皮は、縦じま模様（若い木）→縦に裂けてはがれる（老木）
根元は板根状になることがある。
ニレ科からアサ科に分類が変わった。

61

キチジョウソウ

キジカクシ科

吉祥草
下部は両性花、上部は雌蕊のない雄花が混じり、
茎は紫色
果実は約1cmの赤紫色の液果
暗い林でも育ち地下茎で増える
咲くと良いことがあるといわれ、庭にも植えられる

62

ハラン

キジカクシ科

葉蘭 馬蘭（古名）
九州南部原産。庭に植えられる。
寿司等に付ける緑色のプラスチック製品「人造ハラン」は、ハランを真似てつくったもの
高級料理店では、本物のハランの葉を使う。
暗い環境でも育ち、管理を必要としない。
花は根元に隠れて咲く（5月頃）

63

カナメモチ

バラ科

要繭
名前は、扇の要に使われ、モチノキに似るから、
という説と、アカメモチが訛った、という説
葉の縁には触ると、細かい鋸歯がある。
生垣に多用されるベニカナメモチ（レッドロビン）
は、オオカナメモチとカナメモチとの交配種。

64

ヘクソカズラ

アカネ科

屁糞葛
別名：サオトメバナ、ヤイトバナ（灸花）、糞葛
中国名：鶏屎藤（けいしとう）
葉や茎を揉むと、悪臭がある。（時期によっては臭わない）。花がお灸の跡に似る。

65

モチノキ

モチノキ科

繭の木
樹皮からトリモチを作った
秋に赤い実がつく。
近縁種のクロガネモチはモチノキに比べ、若い茎や花
が赤みを帯び、葉が乾くと鉄色（クロガネ色）になる。
※現在ではトリモチで鳥をとることは、鳥獣保護法違反です！

66

ビワ

バラ科

枇杷

中国原産

11月～12月に芳香のある花を咲かせる。冬場に活動するアブ、ハエ類や鳥類により受粉する。
「桃栗三年柿八年枇杷は早くて十三年」
材は固く粘りがあるため、杖や木刀に使用される。

67

不動の滝

山岳信仰が盛んとなった江戸時代の中ごろより、富士山・大山などの霊山に発祥する際、出発に先だち地元の人たちがここで身を清める「みそぎ場」として使われていた。

崖上にはこの滝の守護神ともいえる不動尊石像を祀る。昔は滝つぼの前に垢離(こり)堂が設けられていたという。昭和8年滝つぼが整理される前には、現在より水量も多く水の落ち口も広がったようである。

この滝水はいかなる時でも涸れることがないと伝えられるが、周辺の宅地開発にともない水量は減少している。それでも、自然の豊かだった時代をほうふつさせる遺構として、いまでも地元の人たちによって守られている。

平成15年1月「東京都名湧水57選」に指定 (環境課作成資料より要約)

68

不動の滝 1970年代?の写真



滝不動の前地点より南を見る1号予定地点

69

シラカシ

ブナ科

白樺

材が白いことから

関東地方の照葉樹林帯で多く見られる。
防風のために植えられ、高生垣にもする。
どんぐりの帽子の模様は横縞

70

コナラ

ブナ科

小櫓 別名:ホウソ

武蔵野の雑木林の代表的な樹木

枯れた葉が冬の間、枝に残り、春の芽吹きの前に落ちることが多い。若葉は銀色がかって美しい。

落ち葉は堆肥に、幹や枝は燃料、シイタケ栽培のほだ木に、どんぐりは食料に利用されていた。

どんぐりの帽子の模様は、うろこ状。

71